

2025年度 壱岐島TNR 地域集中プロジェクト 実施報告書



公益財団法人
どうぶつ基金
ANIMAL ACTION FUND

主催
公益財団法人どうぶつ基金

申請者
長崎県壱岐市

期間
2025年4月～2026年3月

CONTENTS

- 01 実施決定までの経緯
- 02 プロジェクト始動の背景と体制
- 03 業務・費用分担
- 04 第二回プロジェクト実施までの行程
- 05 どうぶつ基金病院
- 06 手術数
- 07 手術数と妊娠率の推移
- 08 ボランティアとその役割
- 09 市民への周知の取り組み
- 10 メディア
- 11 感謝状贈呈式
- 12 官民協働の理想のかたち
- 13 まとめ



■ 申請事業の背景・必要性及び目的

壱岐島では、これまで一部地域やボランティアによるTNR活動が行われてきましたが、市全体として本格的にTNRに取り組む体制は十分に整っていませんでした。

そのため、島内の多くの猫が未手術のままとなり、猫の繁殖スピードにTNRの実施が追いつかず、猫の数は増加傾向にありました。

2024年9月には一斉TNR（119頭）、2024年12月～2025年3月には第一回TNRプロジェクト（520頭）が実施され、一定の成果は得られたものの、対応できたのは島内のごく一部地域に限られていました。

こうした状況を受け、2025年2月に壱岐市とどうぶつ基金がエンゲージメントパートナー協定を締結し、2025年4月からは市と民間団体が協働する形で、壱岐島全域を対象としたTNR地域集中プロジェクトが本格的に始動しました。

■ 長崎県壱岐市

九州の玄界灘に浮かぶ、やや南北に長い亀状の島で、本島と23の属島(有人島4、無人島19)からなる大きな島です。

「魏志倭人伝」や「日本書紀」にも登場する歴史ある島で、島内には150を超える神社、貴重な遺跡や歴史遺産がいくつも点在しています。また、弥生時代の一支国の王都とされる原の辻遺跡からは、日本最古級とされるイエネコの骨が発見されており、壱岐は約2,000年前から人と猫が共生してきた歴史を持つ島として知られています。大陸との交流拠点であった壱岐には古くから猫が持ち込まれ、人々の暮らしの中で共に生きてきました。

暮らしのなかに息づく歴史、そして美しい海と自然の絶景を求めて、年間を通して多くの観光客が訪れています。

こうした歴史ある壱岐の地で、私たちは人と猫がこれからも共生できる環境を守るため、TNR（捕獲・不妊去勢手術・元の場所へ戻す）活動を推進しています。約2,000年前から続く人と猫とのつながりを未来へつないでいくことも、このプロジェクトの大切な目的の一つです。



人口：23,014人
面積：139.42km²（2026年4月末時点）
※壱岐市公式サイト、一般社団法人壱岐市観光連盟公式サイトより抜粋。



■ 申請事業の地域の状況について

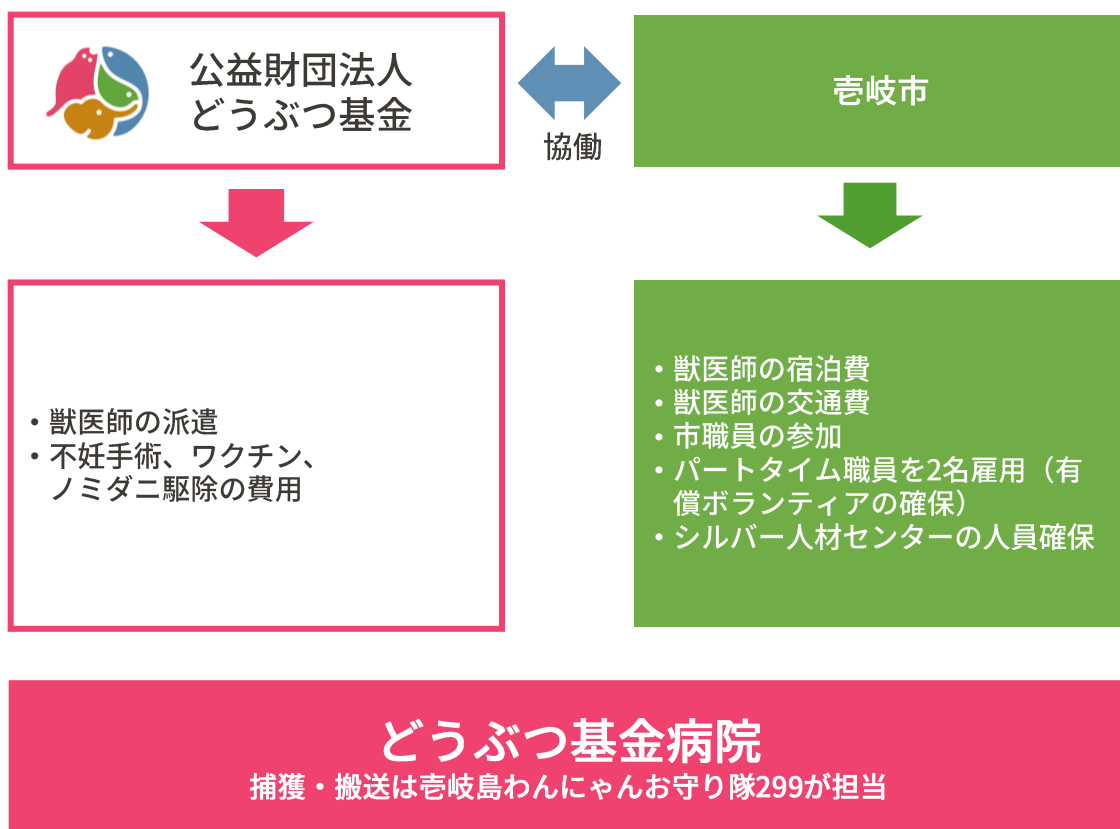
2024年9月の一斉TNR、2024年12月～2025年3月の第一回プロジェクトでは、一定数の成果をあげることはできたものの、問い合わせが相次いだにもかかわらず対応ができたのは島のわずか一地域のみでした。

市長の視察もあり、一斉TNRが壱岐市の猫問題の解決に効果的と実感をしていただき、第一回プロジェクト期間中である2025年2月18日に、どうぶつ基金と壱岐市はエンゲージメントパートナー協定を締結し調印式を行いました。

第二回ではどうぶつ基金と壱岐市が協働をし「どうぶつ基金病院壱岐島」を開院、長崎県の後援も受け下記3,000頭の猫の不妊手術を予定しプロジェクトが実施されました。

- ・ 島内に生息する飼い主のいない猫
- ・ 壱岐市が本プロジェクトによる不妊手術が必要と認めた猫

■ プロジェクトの体制





業務と費用の分担について

どうぶつ基金と苓崎市が下記の通り業務と費用を分担しました

	公益財団法人どうぶつ基金	行政（苓崎市）
業務分担	・獣医師の手配 ・各種備品(手術管理用タグ、横断幕、ビブス等)の提供 ・広報（メディア対応、チラシ作成） ・無料不妊手術チケット配分	・診療施設の運営管理 ・ボランティアの手配及び管理 ・ビブス、捕獲器、幕の管理 ・受付業務 ・集計（エクセル） ・猫の管理（術前、術後） ・胎児の処理 ・ゴミの処理 ・広報（メディア対応、SNS他） ・どうぶつ基金への報告
費用分担	・不妊手術、ワクチン、ノミダニ駆除薬 ・各種備品(手術管理用タグ、横断幕、ビブス等)の費用	・診療施設等で使用する消耗品等の費用 ・診療施設等の水道光熱費 ・獣医師の交通費、宿泊費

人員

市職員（1名～） / シルバー人材（3名～）

有償ボランティア（各日2名～） / 無償ボランティア（各日1名～）

※有償ボランティア・シルバー人材は苓崎市が費用負担

使用捕獲器数

どうぶつ基金より貸与 104台 / 苓岐島わんにゃんお守り隊299より貸与 30台

運搬車両

市役所車両 / 苓岐島わんにゃんお守り隊299の車両を使用

捕獲・リターンは苓岐島わんにゃんお守り隊299及び市職員が実施。
ガソリン代等を助成

04 第二回プロジェクト実施までの行程



行程

月	詳細
2024年 9月	26日～30日 一斉TNR実施
2024年 12月	第一回プロジェクト開始 どうぶつ基金プレスリリース
2025年 2月	「吉崎市エンゲージメントパートナー協定」締結 どうぶつ基金プレスリリース
2025年 3月	第一回プロジェクト終了・継続決定 どうぶつ基金プレスリリース
2025年 4月	第二回プロジェクト開始 開院式

2025年4月27日に開院式が行われました。



■ 移動手術車 獣医療機器を設置した移動式の手術室



1. 少人数で効率的に手術を実施できました

移動手術車は、毛刈りから不妊手術までを獣医師が車内で完結でき、1日40～50頭を獣医師1名と6～10名のスタッフで実施できました。

2. 会場設営の負担を軽減できました

滅菌済み設備が整っていたため、到着後すぐに手術を開始できました。準備作業が最小限で済み、市職員・ボランティア双方の負担軽減につながりました。

【結論】

今回の取り組みにより、移動手術車は「さくらねこTNRを全国で迅速かつ継続的に実施する」ための有効な基盤であることが再確認できました。

人員削減、設営負担の軽減、地理的制約の解消、常設病院が難しい地域への対応力など、多面的な効果が明らかとなり、「殺処分ゼロ」に向けた重要な推進力となることが示されました。



■ 処置内容

不妊手術（オス・メス）、3種混合ワクチン、補液、ノミ・ダニ駆除（マイフリーガード）、耳先のV字カット

手術時間：オス 1-2分 メス5分 堕胎手術15分-30分

麻酔時間：30-60分

1日（約8時間）獣医1名の手術数：約40-50頭（オス50%、メス50%）

■ 獣医師

どうぶつ基金病院壱岐島 院長
長井 和樹（ながい かずき）

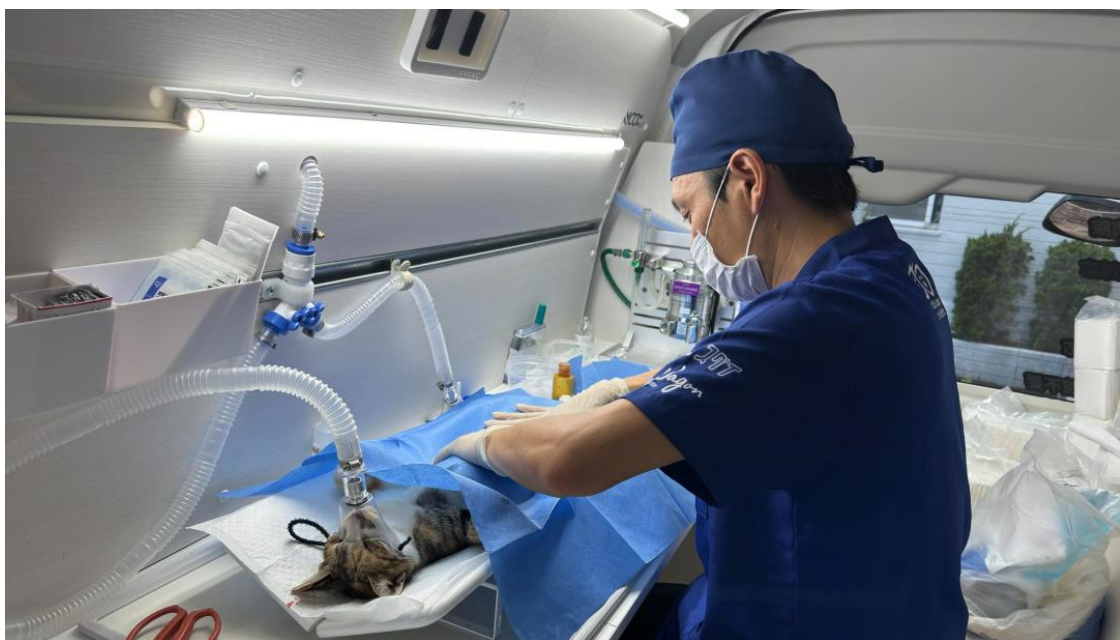
山口大学農学部獣医学科卒

熊本市職員として食肉衛生検査所、動植物園、動物愛護センターに勤務

2024年に不妊手術専門病院を開業

同年よりどうぶつ基金TNRプロジェクトの院長を務める。

長崎県壱岐島をはじめとする離島や宮崎県の山間部においてTNR活動を精力的に展開し、地域の不妊手術体制の整備と殺処分ゼロの実現に向けて尽力している。





■ 実施日、人員配置

手術日の人員体制（準備日は除く 各日）

手術 実施日	手術実施場所	行政 職員 (名)	シルバー 人材	ボランティア		手術 頭数
				有償	無償	
4月（6日間）	どうぶつ病院壱岐島	1～4	3	2	3～5	200
5月（6日間）	どうぶつ病院壱岐島	1	2～3	2	3～5	258
6月（7日間）	どうぶつ病院壱岐島	1	3	2	2～6	239
7月（10日間）	どうぶつ病院壱岐島	1	3	2	2～6	345
8月（10日間）	どうぶつ病院壱岐島	1～3	3	2	1～5	346
9月（10日間）	どうぶつ病院壱岐島	1～3	3	2	1～5	388
10月（9日間）	どうぶつ病院壱岐島	1～2	3	2	0～4	355
11月（9日間）	どうぶつ病院壱岐島	1～2	3	2	0～5	366
12月（9日間）	どうぶつ病院壱岐島	2～3	2～3	2	3～4	368
1月（8日間）	どうぶつ病院壱岐島	1～2	2～3	2	2～4	231
2月（5日間）	どうぶつ病院壱岐島	2	3	2	4	178
3月（3日間）	どうぶつ病院壱岐島	2～3	3	2	3	84
					計	3,358

シルバー人材センターは壱岐市行政が手配
有償ボランティア2名は市の職員として参加





手術頭数

予定頭数：250頭/月 計3,000頭

対象：島内に生息する飼い主のいない猫／行政が必要と認めた猫

	オス	メス	メス(妊娠)	耳カットのみ	計
4月	88	79	33	0	200
5月	107	115	36	0	258
6月	93	116	30	0	239
7月	154	158	32	1	345
8月	144	173	29	0	346
9月	167	213	8	0	388
10月	154	201	0	0	355
11月	141	222	2	1	366
12月	171	197	0	0	368
1月	110	116	5	0	231
2月	93	75	10	0	178
3月	32	24	28	0	84
合計	1,454	1,689	213	2	3,358

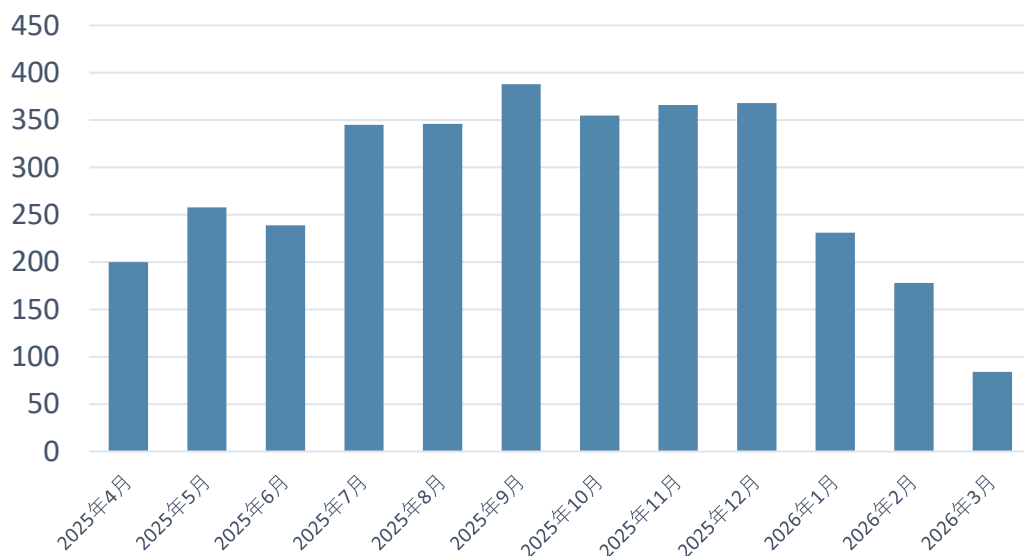
【死亡頭数】 0頭 【墮胎数】 436頭



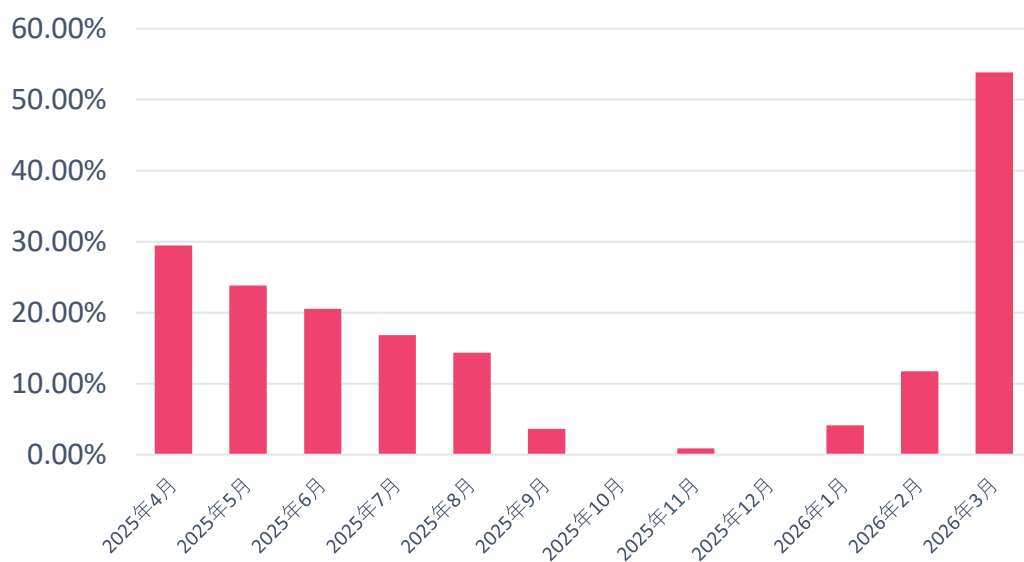
07 手術数と妊娠率の推移



■ 手術数の推移



■ 妊娠率の推移





■ 捕獲・運搬

手術に備えて絶食・絶水など給餌状況をコントロールし、捕獲した猫は順次、手術会場へ運搬します。

本プロジェクトでは吉崎市及び「吉岐島わんにゃんお守り隊299」が捕獲・搬送を行いました。



■ 個体管理

手術場所に到着したら、猫の特徴を確認して管理用タグに記載する個体管理に取り掛かります。



■ 術前・術後管理

術前、術後の猫はボランティアによる見守りが行われ、異常があればすぐに獣医師に報告され処置が行われます。

また、管理用タグによって、術前～術後はもちろん、無事に引き渡し完了するまで、トラブルや間違いが発生しないよう努めています。





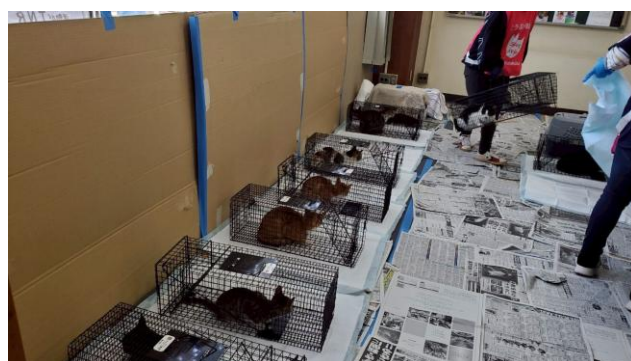
■ 会場の設営・撤収等

移動診療車による出張手術では、毛刈りなどの処置も獣医師が診療車内で行うため、手術そのものに関わる作業は少なくなります。

しかし、その裏側では、会場の設営や後片付け、手術の受付や猫の引き渡し、待機場所と診療車の間の猫の移動、使用済みケージの洗浄、翌日の捕獲準備など、ボランティアの方々が担う役割は実に多岐にわたります。

壱岐島わんにゃんお守り隊299のメンバーだけでなく、市職員他、市をあげて会場の運営を行いました。

地域住民の皆様からの理解や協力も得やすくなり、活動の基盤がより強固なものとなっています。





■ スペイカースケッチ大会など

2025年4月は「スペイカースケッチ大会」が実施され、小さなお子さまたちが猫を描いたり、TNRの様子を見学したりすることができました。



中学生や高校生のボランティア参加、小学生の見学など若い世代が貴重な命の現場を学ぶ機会にもなりました。





新聞に掲載



稲原市長から感謝状を受ける佐上理事長（右）

どうぶつ基金病院を岐島が閉院 4千頭を手術 佐上理事長「第2章の始まり」

昨年4月から野良猫の不妊去勢手術を行ってきた「どうぶつ基金病院香岐島」（香岐町芦辺浦）が19日、閉院した。同病院は過酷な環境で生きる野良猫を減らすとともに殺処分ゼロを目指すため、市が1年間限定で設置。昨年9月に市とエンゲージメントパートナー協定を締結している公益財団法人どうぶつ基金（佐上邦久理事長、兵庫県豊岡市）が獣医師を派遣していた。1年間の手術頭数は3997頭に上った。

閉院式で佐上理事長（66）は「香岐市の皆様の理解と決断、そして全国からの寄付で支えられ、この成果になった。感謝したい」として「手術した猫はほぼ100%で、残っている頭数は百頭以下。いらないと思うが、そのまま残すと3年で元の状態に戻ってしまう。ここで終わってはいけません」と強調した。

さらに「どうぶつ基金は福岡の協力病院で使える無料不妊去勢手術チケットを最後まで香岐市に配布したい」と更なる協力を表明。閉院式で第2章の始まり。最後の最後まで、殺処分ゼロ、そして「世界で最も猫に優しい香岐の島」になっていたと述べた。

手術した獣医師の長井和樹さん（43）も「昨日、昨日に手術した猫もすでに妊娠している子猫がかなりの数いたので、少しずつでも継続していくことが大切だと思う」と述べた。

稲原市長は協力に感謝を述べた上で「また元に戻ってしまうのは意味がない。まことにこれから暑く難だと思つ。今後とも持続できるような行政の後押しも考えていきたい。この一年で市民の意識も変わったので、（適正飼養など）普及啓発しSDGsの成功事例としてPRしていきたい」と述べ、佐上理事長に感謝状を贈った。

佐上理事長との対談で、佐上理事長が手術のために猫を移送するボランティアに対するウェリ代への要求めったことに、稲原市長は「自助、共助を後押しするのが公助。行政の仕事。パートナー企業と未来共創基盤みたいなのを作って色々な取り組みに充てていく」と思っている。検討したい」と述べた。

野良猫の捕獲や手術を側面サポートしてきたボランティア団体「香岐島わんちゃんお守り隊299」（松崎千代子代表）は同病院の閉院前から無料チケットを使うが、島外で野良猫の手術を推進。これまでに携わった野良猫の手術は4336頭に上った。松崎代表（51）は

2026年3月27日香岐新聞
「どうぶつ基金病院香岐島が閉院」



佐上理事長（左）と稲原市長（右）

「どうぶつ基金病院香岐島」が閉院 4056匹の猫に不妊・去勢

大や猫の殺処分ゼロを目指す兵庫県動物愛護会を達成したとして閉院式を開き、事業の終了を宣言した。同病院は、市と稲原市長から佐上理事長へ感謝状が贈られた。

本日は大猫の殺処分ゼロ・殺処分率ともに全国でも高い水準にあり、本日も県内で処分数の多い自治体の一つだった。野良猫の捕獲、不妊・去勢手術、元の場所へ戻す取り組み（TNR）は、市内に動物病院が2件しかないことから、臨時体制に限りがあった。といった状況を受け、いつしか閉院を受けることになった。

同病院は2024年9月、芦辺町の日しんぎょん施設に閉院。閉院前の2022年からの活動も含め、市内の猫4056匹に不妊・去勢手術を実施し、目標の3千匹を大きく上回った。

佐上理事長は「ほぼ100%に近い達成だが、わずかに1匹でも残れば3年後には再び3千匹規模に増える可能性がある。今後も不妊・去勢を継続することが重要」として「引き続き福岡市内で手術が受けられる無料チケットを配布したい。猫に優しい島であってほしい」と話した。

稲原市長は「人と猫が共生できる取り組みだった。再び元の水準に戻らないよう、行政としても活動の継続を支援したい」と述べた。

2026年4月3日香岐新聞
「「どうぶつ基金病院香岐島」が閉院」

2026年4月7日長崎新聞
「どうぶつ基金病院」が閉院 長崎・香岐、猫の不妊手術3997匹終える

長崎・香岐市の野良猫 4000匹に不妊手術 市長が感謝状

2026/4/8 6:00 (2026/4/16 5:00 更新) [有料会員登録記事]

#長崎 #佐世保 #動物 犬猫

野田 範子 + フォロー



稲原市長（左）から感謝状を受け取る佐上理事長

公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県）は3月、野良猫の繁殖を防ぐため、捕獲して不妊・去勢手術をし、元の場所に返す「TNR活動」...

2026年4月8日西日本新聞
「長崎・香岐市の野良猫 4000匹に不妊手術 市長が感謝状」

■ 壱岐市長より感謝状贈呈

2026年3月19日に行われた閉院式では、「感謝状」を拝受しました。



壱岐市長とどうぶつ基金理事長の対談

<https://www.youtube.com/watch?v=i8FpNJtQq-A>





行政の大きな協力

本プロジェクトは、どうぶつ基金と壱岐市が協働して実施した、全国でも類例を見ない官民一体型のTNRプロジェクトです。

壱岐市からはシルバー人材、有償ボランティアの費用負担、ボランティア団体「壱岐島わんにゃんお守り隊299」へのガソリン代の助成など支援をいただきました。

2025年2月には「エンゲージメントパートナー協定」を正式に締結し、継続的な官民協働体制を確立し、それに基づく今年度のプロジェクト実施となりました。

市長自らが手術現場を視察し、長崎県の後援のもと、行政・市民・民間が三位一体となった本プロジェクトは、「官民協働の理想の形」として全国から注目を集めています。どうぶつ基金はこの壱岐島での実践を礎に、同様のモデルが全国各地へと広がるよう、取り組みを継続してまいります。



子ども達への動物愛護教育

プロジェクト期間中は、地域の子どもたちがTNRの様子を見学し、猫を描いたり命の現場に触れたりする貴重な機会が設けられました。

学生のボランティア参加、小学生の見学など、若い世代への動物愛護教育の場としても大きな役割を果たしました。





■ 官民連携で歩む「共存の道」。4,000頭の命を、島の大切な宝に



どうぶつ基金様、獣医師様ならびに地元ボランティアの皆さまのご協力により、「日本最古のイエネコの島“壱岐”」において、これまでに約4,000頭のさくらねこを誕生させることができましたことを、深く感謝申し上げます。

「ヒトとネコが共存する理想郷」として活動を継続していくとともに、長崎県が掲げる「動物殺処分ゼロ」の実現に向けて、行政、愛護団体、市民が一体となって、今後も取り組んでまいります。

壱岐市長 篠原一生 様

■ 奮闘の先にあった幸せ。 これからも島にさくらねこの花を咲かせ続けたい



「島にはどのくらいの猫がいますか？」と理事長に聞かれた時に「3,000頭以上はいます」とお答えしたことが昨日のようです。

期間中は「予定頭数捕獲できるか？」「天気はどうか？」などいろいろな不安との戦いでした。

でも、さくらねこになった猫ちゃんの姿、そして何より依頼者の方の安心した笑顔に私たちが幸せをいただきました。

全国の支援者の皆さまに心より感謝申し上げます。島にさくらねこの花が咲き続けるように、これからも頑張っていきます。

壱岐島わんにゃんお守り隊299
代表 松嶋 純子



2025年4月から2026年3月にかけて実施した壱岐島TNR地域集中プロジェクト「イキイキさくらねこTNR」第二回が、無事に終了いたしました。

予想を大きく上回る頭数の不妊手術が完了し、壱岐島の猫問題は大きく前進したと確信しています。

これも、壱岐市行政の高い関心とご支援、壱岐島わんにゃんお守り隊299をはじめとするボランティアの皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

本プロジェクトは、行政・市民・民間団体が一体となって地域の猫問題に取り組む「官民協働の新たなモデル」として全国から注目を集めました。

壱岐市とのエンゲージメントパートナー協定に象徴されるように、行政が主体的に動物愛護へ関与する姿勢は、今後の全国展開に向けた大きな道標となっています。

壱岐島では、累計4,056頭のさくらねこが誕生しましたが、これで終わりではありません。今後の見守りと、未手術の猫へのTNRを継続していかなければ、TNRのゴールは見えません。

活動の継続には市民の皆様のご理解とご協力が必須であり、それを大きく後押ししてくれるのが行政であると強く実感しております。

壱岐島の取り組みが、人と猫が共に幸せに暮らせる社会をつくるための全国モデルとして広がっていくことを願っています。



イキイキ！ さくらねこTNR 大作戦



さくらねこは不妊手術済みのしるし
TNRはねこを捕獲し不妊手術して元の場所に戻す愛護活動です



どうぶつ基金
公式HP



どうぶつ基金の活動をみる▲

壱岐で生きるねこに無料で不妊手術

主催：公益財団法人どうぶつ基金 協働：壱岐市 & 壱岐島わんにゃんお守り隊 299
ねこの無料不妊手術の予約 / お問い合わせは壱岐市役所 環境衛生課 0920-45-1112

公益財団法人
どうぶつ基金
ANIMAL ACTION FUND

公益財団法人どうぶつ基金

長崎県壱岐市

壱岐島わんにゃんお守り隊299